

科目名	会計監査論A Auditing A						
科目担当者	出山 実 IDEYAMA Minoru						
単位数	2	配当年次	3年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	<p>会計監査は、財務諸表が適正に作成されたかどうかチェックするための仕組みです。公開会社では、監査役と第三者である公認会計士（監査法人）による会計監査が行われます。一方で、会計不正や粉飾決算のニュースが後を絶たず、会計監査の実効性が問われています。監査は、株主や投資家、金融機関等への適切な情報開示の要諦である元来の目的に常に立ち返らなければなりません。本講義では、財務諸表監査について深く学びます。講義の進め方は、学生による報告と討議形式で進めていきます。毎回、担当者を決めて、該当分野を報告してもらいます。</p>						
授業の到達目標	<p>①財務諸表監査の必要性や監査を取り巻く法律を深く理解する。 ②会計不正に関する諸問題を的確に把握できる。</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション					
	2	社会を揺るがす経済事件<1>					
	3	社会を揺るがす経済事件<2>					
	4	経済事件とコーポレート・ガバナンス<1>：コーポレート・ガバナンスと内部統制					
	5	経済事件とコーポレート・ガバナンス<2>：内部統制のフレームワーク					
	6	経済社会を支える財務情報<1>：情報公開制度の拡充					
	7	経済社会を支える財務情報<2>：企業情報の公開制度					
	8	財務諸表監査の必要性<1>：監査の役割					
	9	財務諸表監査の必要性<2>：モニタリング仮説					
	10	監査を取り巻く法律<1>：法定監査					
	11	監査を取り巻く法律<2>：公認会計士法					
	12	監査を担当する人<1>：公認会計士に求められるもの					
	13	監査を担当する人<2>：公認会計士の責任					
	14	監査を取り巻く組織<1>：日本の組織					
	15	監査を取り巻く組織<2>：米国の組織					
授業外学修 (事前学修)	<p>①報告担当者：担当する箇所のプレゼンテーションを作成する（3時間程度）。 ②受講者：教科書の対象範囲を読んでくる（1時間程度）。</p>						
授業外学修 (事後学修)	講義で提示した関連資料を要約してくる（3時間程度）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	①担当箇所の報告 ②定期試験				①30% ②70%		①② ①②
成績評価基準	<p>秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	盛田 良久 編著『はじめてまなぶ監査論〈第2版〉』中央経済社						
参考文献							
その他	<p><どのような学生の受講が望ましいか> ・日商簿記 2 級レベルの知識を持った学生 ・会計監査の知識を身につけたい学生 ・将来、経理・財務担当者、内部監査人になりたい学生 <あらかじめ受講して欲しい科目> 経営分析、財務諸表論、管理会計論、原価計算論 <併行して受講して欲しい科目> 税務会計論、環境会計学</p>						